

会議名	全国自立援助ホーム協議会あり方検討委員会（多機能化・高機能化グループ）第10回		
日時	2022年8月1日（月）10：00～11：30	場所	オンライン（zoom利用）
出席者 役割所属 ※敬称略	<ul style="list-style-type: none"> ・前川礼彦（副会長/湘南つばさの家）・松本耕造（副会長/清周寮） ・恒松大輔（事務局長/あすなる荘）・川口充紀（制度政策：長/わだちの家） ・内藤直人（調査研究：長/鳥取フレンド）・本間征二（研修：副/KCカルム） ・熊澤百恵（広報：副/しおん）・万治貴史（事務局/カリヨンタヤけ荘） ・久保課長補佐（厚生労働省）・國澤児童福祉専門官（厚生労働省） 		
	10／名		
○協議内容			
⇒結論（助言や次回以降への課題も含）			
<p>1、前回の確認・報告書について</p> <p>○先行事例実践インタビュー調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KCカルムにおける地域支援についてのインタビュー調査を実施。 ・種別の垣根を超えた支援体制と地域とつながっていくための支援活動に注力している。 ・職員にも上記方針が浸透している。 ・パーソナルサポート事業で培ったネットワークを基に、さらに発展させ、ケースワークにつなげていった経緯がある。 ・法人内に複数の事業所がある。障害分野、自立準備ホーム等。 ・社会的養護に限らず、若者全体を支援対象と捉えている。 ・地域に対して、総合相談を実施。自立援助ホームとして、地域の相談も受けている。 ・通所、訪問支援は入居前提でないケースに対しても行う。 ・市役所等の委託事業を、他機関と連携し、就労支援に運用。 ・自立援助ホームの中に閉じこもる支援ではなく、地域に向けた支援。さらに開けたホームとなるようにしたい。 ・元職員が他機関で活躍していたり、利用者が支援者となったりと支援者養成の土壌ができている。 ・今後さらに地域に開かれたホームとしたい。 ・多種多様な支援者で支える仕組みを作りたい。 <p>○KCカルム本間さんより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー調査が、ホーム実践の振り返りとなった。 ・地域づくりの軸となれるような活動を続けたい。 ・認知度がまだまだ低く、偏見等もある。今後も改善が必要。退居者がホームはもちろん、地域の人ともつながって育っていけるようにしたい。 ・最近、中学生の相談が増えている。将来的に加害者・被害者にならないために活動できればと思う。 ・ホーム単体でできることは少ない。地域と連携していきたい。 <p>○意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホーム開設時に地域からの反対があって、予定地を変更せざるを得なかった。県からの受託で行っていたジョブサロン事業は地域との親和性が高かった。 ・同じ団体がやっても、切り口が違くと地域との関わりが変わってくる。 ・初めに地域支援（若者支援）があって、その中に自立援助ホームがどう参画していくか。 ・児童家庭支援センター、乳児院、児童養護施設、自立援助ホームが法人内にある。 ・児童養護施設に比べると、地域からの認知度が低い。年少者の相談は入ってきても、若者の相談は入ってこない。 ・困っている人は自分で困っていると声を上げづらい。 			

- ・市役所で把握しているニーズが児童相談所にうまく伝わっていない現状。
- ・市の子ども支援課との情報共有等の連携を強化中。
- ・他の社会資源とつながる重要性を再認識。
- ・足立区：貧困対策課との連携を目指す…高年齢児童に対しての支援が難しいという声があり、今後ホームが何をできるかを検討したい。
- ・清瀬市：若者支援団体の数が多い。中心となっている法人はSSWとのつながりが強い。
- ・自立援助ホームのスペースで、無料学習塾の委託を受けて実施したケースもある。
- ・ホーム単体で地域支援に参画していくのは難しいが、ニーズをどう捉えていくかで、参画の可能性は広がる。

2、児童相談所アンケートについて

○アンケート進捗状況報告

- ・全児童相談所にアンケート調査を実施予定。
- ・項目精査中。
- ・8月中は発出して、9月中には集計したい。

⇒家庭福祉課より

- ・児童相談所への調査状況は不明。おそらく毎年は実施していない。
- ・アンケートは項目を絞る、選択を簡易にする等、回収率を上げるための工夫が必要か。

3、家庭福祉課との意見交換

- ・前年度からの委員会について説明。

○課からの要望、期待すること

- ・地域資源の活用、連携方法。KCカルムのような好事例を発信していく。
- ・本来業務が疎かにならない範囲で、地域の事情に合わせて広げていただければ。
- ・自立支援研究会への参画について検討。現場（利用者・職員）の意見を取り入れたい。
- ・児童福祉法の改正に伴う、自立援助ホームの役割の変化について意見交換をしたい。
- ・最も難しい年齢層の支援に当たっている印象。思春期、活用すべき制度も複雑。
- ・地域ごとの活動が他地域や他事業所へも拡充されたい。

○意見交換

- ・施設やホームと市区町村とでは、法改正に向けてのスタンスに温度差あるか。
多機能化が進んでいくと、市区町村との関わりが必須となっていくため、今後の課題となる。
- ・自立援助ホームが地域に参画していけるように努力が必要であろう。
- ・地域差に関しては以前から課題となっている。地域、ホーム双方の努力に期待する。

次回

2022年9月5日（月）10:00～11:30